

実社会の課題解決を参考に、自分なりの課題を設定！

「人がよりよく生きるとはどういうことか」というテーマで探究カリキュラムを編成。2020年度は、「人生100年時代」というキーワードを生徒に提示し、100年の人生をどう生きるか、また、わたし達が生まれる前も人生を終えた後も存在する世界はどんな世界だといいいのか、自分なりに考えさせる探究を実施した。

対象：2年生 280名
7クラス 普通科

■ 年間カリキュラム

- 総合的な探究の時間（35時間）
- 活用テーマ：導入、まち、伝統継承、共生
- 学校テーマ：人がよりよく生きるとはどういうことか
 - ・ 専門機関と関わりながら探究を進める『Future Vision』。2年生は、12のテーマから選択したグループ探究・個人探究を行う。



自分達の探究課題を発見・設定する前に、本教材を実施し、全体で「実社会の課題解決アプローチ」を学んだ。テーマ「まち」では、まちの課題と実際に取り組まれている解決策を分析させ、一人一人が課題解決に向けた今後のプロセスに見通しをもつことができた。

活用のアドバイス

探究の指導のカギは、共通性と自立性。この教材は「基礎編と実践編」がまさにそれを実現させてくれます。共通で基礎がしっかり身につけていれば、自分でどんどん探究していけます。「100年続くまち」という設定が、「じゃあ、自分の地域だったら…」と考えやすかったです。このアプローチがあったおかげで、生徒が探究を自分事として捉え、その後の自立した個人探究につながりました。



■ 探究エピソード紹介

実社会と協働して探究する『Future Vision』

行政・大学・企業・NPOなどの関係者から話を聞きながら、地域や世界の実情を調べ、自分なりの解をつくりだしていきます。課題意識をもっている人達との協力・協働が特徴です。その成果は、学術祭（啓成高校の呼びかけで、北海道内4校が合同開催）で発表。北海道大学の先生などから、発表の内容、実施方法ともに高評価を得ました。



↑学術祭の様子

研究主任 村中先生から『探究』へのアドバイス！

自分なりの課題の設定には、 「いろいろなテーマ・実社会」に触れさせることが重要

課題は生徒の課題意識が芽生えるタイミングで、生徒自身に設定させることが大切です。そのためには、「いろいろなテーマに触れさせる」ことが有効です。だからこそ、カリキュラムを外に開き、「社会の人と一緒に」考えていくことが大切です。

もちろん、この教材もその一つです。大人が、「今社会が抱えている課題に対してどれだけ真剣に解決に向けて取り組んでいるか」に触れることができます。これが、生徒の課題の設定、探究に与える影響はとて大きいと思います。

Q 北海道の生徒達にとって、「東京駅」や「羽田空港」といった題材は、どのように映ったようですか？

A もちろん、訪れたことがない生徒ばかり。教員も、事前に調べたり、映像を探するなど準備し関心を高めました。でも、一番大切なのは「では、北海道だったら？」と投げかけること。本当に考えさせたい場面では、生徒に身近な題材に置き換える必要があります。

